

修業2年 うち企業実習7か月

就職20人 ニート向け学科

小平市小川西町の職業能力開発総合高等学校東京校に、仕事につかず、教育や職業訓練も受けていないニート向けの「対策学科」が誕生してまもなく4年。建築技術や設計などを2年間学ぶ内容で、企業での長期間の実習と、細やかなカウンセリングが功を奏し、卒業生29人のうち、20人が就職を果たした。3人はさらに勉強している。卒業生に学校の魅力を聞いてみた。

(阿部新)

小平の学校 4年で実績

昨年9月に卒業した男性(42)は現在、実習していた都内の設計事務所でCAD(コンピュータ利用設計)のオペレーターとして働いている。

都内の大学で物理学を専攻したが、興味を失い2年で退学。その後、ガソリンスタンドやファミリールストランドでのアルバイト、工場での作業員、市民団体の職員などを経験してきた。

焦りを感じたのは3年ほど前のこと。年齢も40歳に近づき、求人が少なくなってきた。「仕事を転々とする中で、学歴や軸となるよ

うな技能がないことを強く意識した」と振り返る。そんな折、たまたま読んだ新聞の広告が目が止まった。東京校の募集広告だ。建築に興味はなかったが、「専門的なことが学べる」ことにひかれた。

ただ入学後は、想像以上に「キツイ」カリキュラムが詰まっていた。久しぶりの英語の授業や、ノミ研ぎや線引きの実習。100分の授業が一日に4コマ続く。さらに2年間で約7か月の実習がある。「当初はやっていけないか不安だったが、学んだことを実習で生かせることが面白かった」と振り返る。持病が悪化した学校も休みがちになったこともあったが、クラス仲間が助けてくれた。

男性は「自分の経歴では、企業に相手にされなかった。学校が実習先を紹介してくれたことで就職もできた。入学しなかったら、今もアルバイトをしていたら、ろっ」と話している。

積極発表の場も

就職につなげていく上で学校側が最も気を使っているのが、「学生と相性のいい企業探し」。都内の中小企業を中心に実習の受け入れ先を開拓、求人情報をデータベース化し、学生の興味や適性に合った企業を紹介できるよう努力している。

学生側の課題は、他人とのコミュニケーションに消極的なこと。授業では「プレゼン」と称して、グループワークなどの成果を一人で発表させる場を設け、積極的に話さざるを得ない場面を作っている。講師の和田初美さん(59)は「社会に出れば、黙っているわけにはいかないし、学生に言い聞かせている」と指摘する。ほかに適性などについてカウンセリングを受ける機会に恵まれている。

ただ、2年間は長いという声があり、当初の2年間



設計事務所に就職した男性は、昨秋の入社以来50棟以上の建築物の図面作りに携わっている(写真)

で中退した学生は11人に上る。東京校は「学費も年間39万円かかるが、ニート対策として効果はあるとみて、再挑戦をしてみたい」と呼びかけている。

同学科は正式には「住居環境科」で、定員は15人。対象はおおむね35歳未満。年3回、募集が行われている。選考は面接のみ。問い合わせは同校(☎042・346・7184)へ。